

報道関係各位

公益財団法人 朝日新聞文化財団  
株式会社朝日新聞社

## 大阪国際フェスティバル 再開にあたって

朝日新聞文化財団と朝日新聞社は、2013年4月に大阪・中之島にオープンするフェスティバルホールで「大阪国際フェスティバル」を再開します。

大阪国際フェスティバルは、1958年から中之島の旧フェスティバルホールで毎年春に開かれてきた音楽祭です。半世紀にわたって、国内外の優れた音楽家を招き、日本のクラシック音楽の歴史を牽引してきました。特に、作曲家ストラヴィンスキーの初来日(1959年)、巨匠カラヤンが指揮するベルリン・フィルハーモニー管弦楽団(1966年、1970年、1977年)、ウィーン国立歌劇場(1986年)、ミラノ・スカラ座(1988年)の公演など、その舞台から生まれた数々の名演は、今も人々の記憶に深く刻まれています。中でも、大阪国際フェスティバルの10周年記念となった1967年には、バイロイト音楽祭のドイツ国外での初公演を実現させ、日本のオペラ史上に輝く金字塔として今も語り継がれています。

大阪国際フェスティバルは、旧ホールの建て替えに伴い、2008年春の第50回をもって一旦幕を閉じました。2009年から2012年までは他会場に場所を移して「特別公演」を開いてきましたが、2013年4月の新ホールのオープンとともに「第51回大阪国際フェスティバル」として新たな歴史の一步を踏み出します。

まず、4月10日のこけら落としには、イタリア・ヴェネチアの名門「フェニーチェ歌劇場」を招きます。1792年に創設された、イタリアを代表する歌劇場の一つです。1836年と1996年の2度にわたって火災で焼失しましたが、その名の「不死鳥」の通り、見事に再建された歴史を誇ります。朝日新聞社が招いた2001年と2005年に続く3回目の来日で、ホールのこけら落としを華やかに祝ってくれることになりました。ヴェルディの歌劇「オテロ」を含めた3つの公演で、新しいホールの機能をフルに発揮したイタリア歌劇の素晴らしさを堪能していただけることと思います。

続いて、4月16日にはドイツのミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団が登場します。こちらは、ヴェルディと同じように2013年に生誕200年を迎えるワーグナーの曲を交えて演奏します。指揮は、1974年から何度も大阪国際フェスティバルで名演奏を聴かせてくれているロリン・マゼールです。

4月26日には、フェスティバルホールとゆかりの深い大阪フィルハーモニー交響楽団が、マーラーの交響曲第2番「復活」を演奏します。この日は、1947年に第1回定期演奏会を開いた「大フィル」の記念すべき日です。指揮者は大植英次。2011年の大阪国際フェスティバル特別公演で交響曲第4番を、2012年の特別公演では交響曲第3番を指揮し、3年がかりの「マーラー・プロジェクト」の仕上げとして「第2番」を振り、ホールと大阪国際フェスティバルの“復活”を祝います。

以上3演目のほか、4月17日と18日に第51回大阪国際フェスティバル提携公演として英国のBBCフィルハーモニック(指揮:佐渡裕、ピアノ:辻井伸行)が登場し、11月6日には大阪国際フェスティバル特別公演として、クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が出演します。

新しいフェスティバルホールの船出を存分に楽しんでいただけますよう、準備には万全を期していきます。そして、新ホールが旧ホール同様に関西における舞台芸術の殿堂となるように、ホールの中核事業としての大阪国際フェスティバルもまた、創設時の初心に立ち返りながら、新たな課題に挑んでいきたいと思っています。

以上

### 【お問い合わせ先】

▽朝日新聞文化財団

TEL. 03-5568-8816

(受付時間: 平日 10:00~18:00)